



学校運営協議会(コミュニティ・スクール)

1.強み

- ①保護者を始め地域住民の教育に対する関心が高い
- ②地域ボランティアに積極的な地域住民の存在
- ③教育的価値の高い地域素材が多く存在している

2.弱み

- ①制度に対する地域住民の認知度が低い
- ②学校のニーズに合わせた支援ができる人材が少ない
- ③人口減少による児童・生徒数の減少

3.目指したい将来像

地域住民の参加による、地域とともにある学校づくり

4.優先順位

- 1.学校運営協議会制度の周知
- 2.学校の教育活動等に関する情報発信
- 3.学校教育活動への地域住民の参加促進
- 4.ひとりひとりの人権を尊重する教育

5.めざそう値(成果目標)

成果指標	平成27年度現状値	平成34年度目標値
A 学校行事へ最低年1回は参加する地域住民	1割	3割以上
B 高森町の教育を誇りに思う町民の割合	—	8割以上

6.具体的な取り組み

- ①高森新教育プラン推進協議会の設置
- ②中学校区の特長を活かしたコミュニティ・スクールの充実
- ③高森町新教育プラン推進フォーラムの開催
- ④学校及び地域住民と連携した人権啓発活動の推進



ICTを活用した授業

1.強み

- ①同一敷地内に立地している高森東小学校と高森東中学校
- ②兼務辞令による小中学校教員の相互乗り入れ授業の実施
- ③小中一貫の先駆的な英語教育の実施
- ④素直で純真な児童生徒
- ⑤充実した教育環境

2.弱み

- ①保護者の意識及び家庭環境に格差がある
- ②教師の負担が増えている

3.目指したい将来像

教育環境を整え、子どもたちが楽しく勉強できる学校づくり

4.優先順位

- 1.授業改善によるわかる・楽しい授業の実現
- 2.小中一貫教育の推進と就学前教育及び高等学校との連携強化
- 3.家庭教育の充実
- 4.教育の情報化の推進

5.めざそう値(成果目標)

成果指標	平成27年度現状値	平成34年度目標値
A 不登校の解消	0人	0人 (現状維持)
B 全国学力・学習状況調査における学力向上	—	全国平均を上回る

6.具体的な取り組み

- ①ICTの活用と教育研究会の活性化による授業改善への取組
- ②就学前教育機関および高等学校との連携を見据えた小中一貫英語教育の推進
- ③家庭の教育力の向上にむけた親の学びの推進



高森ふるさと学

1.強み

- ①高森の豊かな自然環境や文化的歴史を知る機会が多い
- ②副読本や文化財一覧により地域素材が教材として整備された
- ③経験豊かな教育指導員の配置

2.弱み

- ①児童生徒数の減少によって児童生徒の意見の多様性を維持することが難しい
- ②児童生徒の生活体験が質、量ともに減少している傾向にある

3.目指したい将来像

高森町を誇りに思い、自分の将来の夢を語る生徒の育成

4.優先順位

- 1.高森ふるさと学の充実
- 2.道徳副読本「高森の心」及び小学校社会科副読本「私たちの高森町」の活用促進
- 3.「特別な教科道徳」への移行を見据えた道徳の授業改善

5.めざそう値(成果目標)



6.具体的な取り組み

- ①「高森ふるさと学」における体験学習の多様性の確保と児童生徒の情意的側面の深化を図ります。
- ②副読本の活用促進に向けた資料等の開発
- ③ICTを活用した道徳授業の改善



テレビ会議

1.強み

- ①全国でもトップレベルのICT(情報通信技術)を活用した教育環境
…電子黒板、タブレットパソコン、テレビ会議システムなど
- ②教務支援システムおよび校務支援システムにより教職員の負担が低減
- ③高森中央小学校における35人学級の実現と高森東小学校における複式学級の解消
(町費負担教職員の配置による町独自の学級編成)

2.弱み

- ①家庭でのICTを活用した学習環境が保障されていない
- ②図書司書の未配置

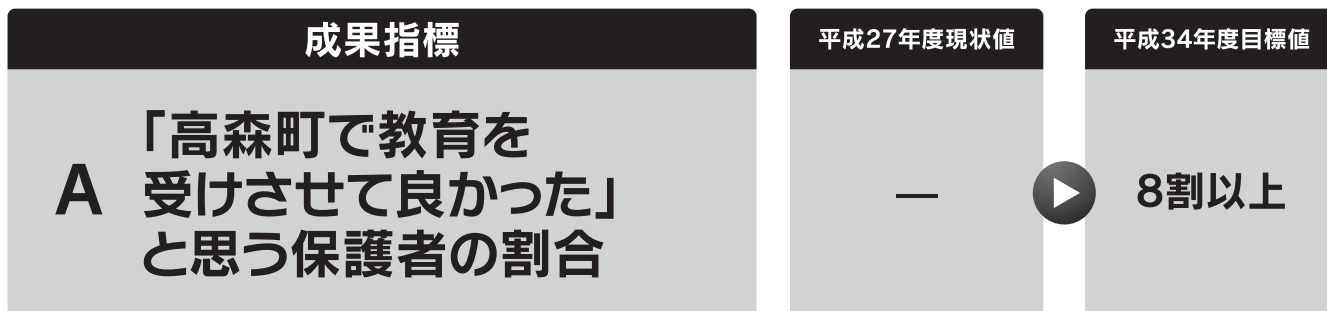
3.目指したい将来像

ICTの活用による教育の質の維持向上

4.優先順位

- 1.ICTを活用した学習環境の充実
- 2.小規模校での教育の質の維持向上
- 3.教育相談・子育て支援の充実

5.めざそう値(成果目標)



6.具体的な取り組み

- ①テレビ会議システムを活用した協働的な学びの充実
- ②特別支援教育相談員を核とした福祉担当課との連携による子育て支援の充実



高SPOスポーツ教室

1.強み

- ①高森町総合型地域スポーツクラブ「高SPO」の活発的な取組(ウォーキング大会、泥りんピツク、ジュニアサッカー大会、農業体験、ロアツソ熊本サッカースクール、異業種交流等)
- ②夏場のスポーツ環境がよい
- ③室内テニスコートがある
- ④よい指導者がいる

2.弱み

- ①多目的施設がなく、しかも老朽化している
- ②冬場のスポーツ環境がない
- ③安全なウォーキングコースがない

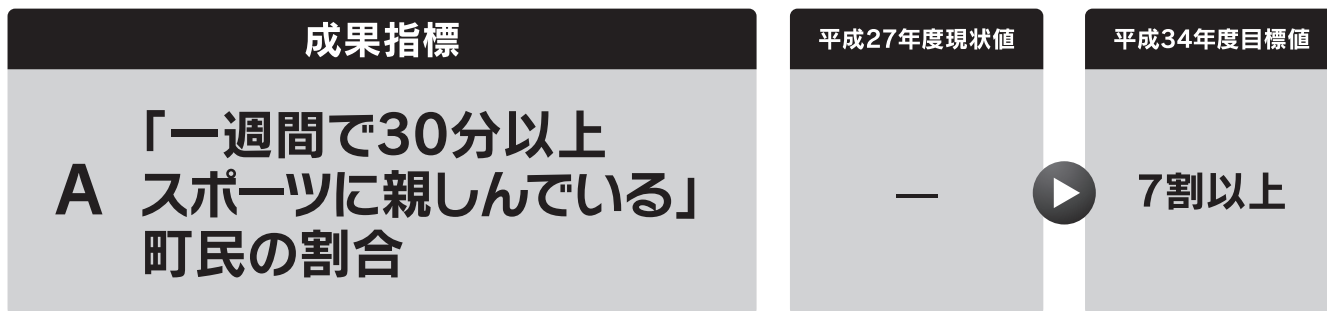
3.目指したい将来像

町民がいつでも・どこでもスポーツに楽しめることができ、長生きできるような環境づくりと、スポーツを産業として育てられる高森町

4.優先順位

- 1.総合スポーツ施設(競技場、体育館、グラウンドなど)の整備
- 2.高SPOの法人化
- 3.宿泊施設の確保

5.めざそう値(成果目標)



6.具体的な取り組み

- ①スポーツ振興の強化⇒スポーツ振興課を設置し、スポーツ振興を強化します。
- ②総合型地域スポーツクラブの育成・支援
⇒高SPOを法人化し、スポーツ指導者育成とボランティア体制の充実を図ります。

基本方針5 「情報共有・共感自治体」高森町



高森ICT教育



たかもりポイントチャンネル

1.高森町の情報・通信環境

高森町では、町内すべての世帯に光ファイバー（超高速ブロードバンド）を引き込みました。それを活用して平成27年4月に「たかもりポイントチャンネル」を開局しました。全国でも珍しい民設民営のケーブルテレビで、地域密着型の自主制作番組・データ放送を配信することで、町の情報がいつでも見られます。

役場内にスタジオがあり、学校行事やイベントなどの情報を紹介したり、住民や町内の事業所の取組みなど、地域に密着した番組を制作します。また、ゴミ出しカレンダーや公共交通機関の時刻表、休日の在宅当番医情報といった生活情報などの情報を発信していきます。

災害時には災害緊急情報が即時に配信され、それらの情報確認を既存のテレビリモコンで操作できるという「使いやすさ」も高齢者に配慮しています。インターネットを活用した、高齢者の健康・安全の見守りや学校教育の場においても環境の充実が期待されています。今後ますます進む高齢化社会への対応、都市部と変わらない教育環境づくり、町の産業の活性化において情報・通信環境の整備は必要不可欠です。

2.展開

(1)ICT政策のファースト・ステップとしてのICT教育の推進

教育がコミュニティ連携・強化の核となると考え、高森町では町のICT政策をすべての町民にわかりやすく共有するためのステップとして、町民の関心と必要性の高い教育分野から推進しています。

平成24年度からタブレット端末や電子黒板、実物投影機などのICT機器の配備や無線LAN回線、光ファイバー回線の敷設、デジタル教科書をはじめとしたデジタルコンテンツの導入などを積極的に進めています。

電子黒板を使った授業や専門家とのテレビ会議などの取組みは、生徒の学力向上やコミュニケーション能力を養うのに非常に役立っています。今後は町内の双方向通信の実現化を進め、学校教育の場における活用だけでなく、医療・福祉・農業など、それぞれの分野における利活用の実現をめざします。

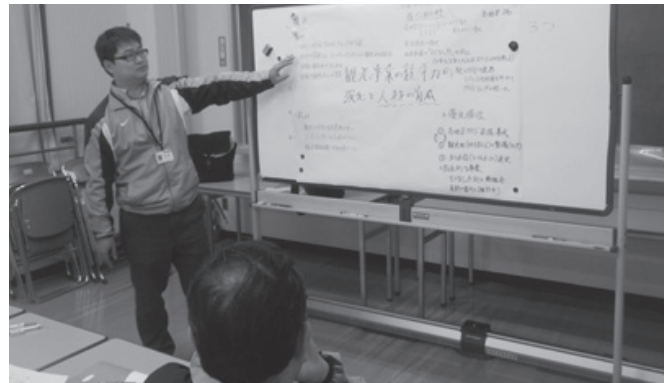
(2)情報公開度

町長の公債費の支出や議事録・会議録の公開など、くまもと・市民オンブズマンによる情報公開度ランキングにおいて、平成25年に県下一の評価を受けました。（平成26年は二番目）県、熊本市以外では初のことです。

1. 高森町の人材育成

まちづくりは「人づくり」と言います。高森町のような小さな町では「人材」が宝です。町民、職員、議員一人ひとりが、高森町をより良くするために積極的に地域や社会に関わる意欲を高めていく必要があります。

高森町では、平成24年から全国でも希な国・県と町の複数年による相互人事交流の実施に合わせ、政策推進課、情報管理係、政策調整係を設置しました。このことは、政策形成集団としての職員の意識向上や国・県とのネットワーク化に役立っています。本総合計画策定も各課職員が関わっており、職員の政策形成能力の向上に繋がっています。高森町の職員は比較的若い職員が多いので、その若さを活かしながらもバランスが取れた年齢構成を実現し、社会人・専門職採用の拡充も図っていきます。



理想の町民像

- ・ 地域に誇りを持った町民
- ・ 何でも行政頼みでなくできることは自ら動く町民
- ・ 政策立案(地域計画など)ができる町民
- ・ ファシリテーション能力(会議、ワークショップなどの場で、発言や参加を促したり、話の流れを整理したりする力)が高い町民

理想の職員像

- ・ 政策立案能力が高い職員
- ・ 地域住民とのつながりを大切にする職員
- ・ 審査能力が高い職員
- ・ 住民対話などコミュニケーション能力が高い職員
- ・ プレゼンテーション能力(説明・理解してもらおう力)が高い職員
- ・ ファシリテーション能力(会議、ワークショップなどの場で、発言や参加を促したり、話の流れを整理したりする力)が高い職員

2. 具体的な取り組み

- ・ 職員の成長を応援するバックアップ制度—リーダー付きの自主学習・研修など(1リーダー対5若手職員×10グループ)
- ・ 職員による政策など提案制度—競争・コンペ方式で職員のアイデアを予算付け
- ・ 女性の意見を反映させる体制づくり—女性管理職の積極登用
- ・ 職員公募の住民サポーター制度の導入
- ・ 住民百人(政策立案)会議
- ・ 住民提案型公募事業
- ・ リーダー養成講座

3. めざそう値

- 仕事以外で地域や社会活動に関わりを持っている職員の割合 8割以上
- 地域や社会活動に関わりを持っている住民の割合 6割以上

あとがき

今回の「総合計画」策定にあたっては、役場内各課の職員からなるプロジェクトチームを組み、農業をされている方や移住されてきた方々との意見交換の場を設けたり、できるだけ町民の皆様の意見を反映し、高森町が今後どのような町を目指すのか、それを実現させるにはどうすればいいのかを考えた計画です。

まちづくりを進めるにあたり、「行政ができること」「町民一人ひとりや家族でできること」「地域でできること」「職場や学校でできること」などの活動場面において、それぞれの立場でできることを考えています。町民一人ひとりが主体となり、それぞれの立場や役割においてできることに取り組むことで、より良いまちづくりができるのではないかと考えています。

「総合計画」の策定のコンセプトとして、事業を実施する行政の職員はもちろんですが、町民の皆様にも、気軽に手にとってもらえるように親しみやすく、分かり易いような形で製作しています。また、その成果においてもできるだけ数値にすることで、事後の検証が可能なものになっています。事業の内容によっては、すぐに実行できるものから、時間をかけて検討すべきものまで含まれていますが、まちづくりは身近なものであるということを感じ取っていただき、町民の皆様がまちづくりへ参加するきっかけとなるよう願っています。